

令和7年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課 建設緑政局緑政部みどり・多摩川事業推進課	要素事業所管課	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課
----------------------------------	---------	-------------------

1 計画の概要

計画の名称	頼りになる安全・安心なみどりのまちづくり（防災・安全）	計画の期間	令和3年度～令和7年度
計画の目標	<p>本市の地域防災計画において広域避難場に指定される公園緑地の整備・拡充により、災害時の避難場所、市街地の延焼防止、救援活動及び物資集積等の拠点となるオープンスペースを確保するとともに、防災・減災に寄与する施設整備を行い、防災機能の向上を図る。※</p> <p>また、老朽化した公園施設の計画的な更新・改築を行い、誰もが安全・安心で快適に利用できる公園緑地の整備を推進する。</p> <p>※防災機能の向上に関する要素事業が別計画「全国都市緑化フェア開催に関連する都市公園の整備」に移行。移行後の計画において目標達成を見込むため、防災機能の向上に関する目標は本計画の対象外となる。</p>		
計画の成果目標（定量的指標）	川崎市公園施設長寿命化計画に基づき更新または改築を行った施設の割合：34%（令和2年度末）→100%（令和7年度末）		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年11月：「都市公園安全・安心対策事業（5か年老朽）」を追加 令和6年2月：「都市公園事業（富士見公園）」を他計画に移行するため本計画から除外 令和6年2月：「都市公園事業（等々力緑地）」を本計画から除外 令和6年2月：「都市公園安全・安心対策事業」に長寿命化対象施設（大師公園 大師球場照明塔）を追加 		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況（概要）

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	都市公園安全・安心対策事業（5か年老朽）	70,000	70,000	70,000	100	事業実施施設数 880 基 (R3～R7) ※R7は見込み値
	都市公園安全・安心対策事業	1,330,000	1,833,000	1,276,000	70	
B (関連社会資本整備事業)						
C (効果促進事業)						
全体事業費（A+B+C）		14,000,000	1,903,000	1,346,000 【財源内訳】 国：673,000 市：673,000	71	

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	川崎市公園施設長寿命化計画に基づき更新または改築を行った施設の割合：34%（令和2年度末）→100%（令和7年度末）			
定義及び算定式	更新または改築を行った施設の数／川崎市公園施設長寿命化計画に定められた更新または改築が必要な施設の数			
その指標を設定した理由	老朽化等により本来発揮すべき機能が遅減する施設について、更新または改築を行うことにより、安心・安全な公園利用の促進効果を測ることができるため。			
当初現況値(R3)	中間目標値	最終目標値(R7)	実績値(R7見込み)	目標達成状況
34%		100%	76%	未達成（見込み）
目標達成状況に対する所見	5年に一度実施する長寿命化対象施設の健全度判定において、大師球場照明塔が「早期に更新等が必要」と判定されたことを受け、早急に安全対策を講じる必要が生じた。このため、照明塔の更新を本計画に追加し、優先的に実施したほか、物価高騰等の影響により、遊具の更新数は当初想定より減少し、目標達成が困難な見込み。			
将来の見込み	今後も継続して事業に取り組むことにより、公園施設の長寿命化を進め、ライフサイクルコストの縮減はもとより、安心・安全で快適な公園利用を促進する。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	市が管理する遊具のうち、定期点検における劣化診断の結果が「a：健全な状態」「b：軽微な劣化がある状態」である遊具の割合（劣化レベルは上記の他、「c：修繕の必要な劣化がある状態」「d：緊急修繕が必要な劣化がある状態」の4段階）
定義及び算定式	市が管理する遊具のうち、定期点検における劣化診断の結果が「a：健全な状態」「b：軽微な劣化がある状態」である遊具の数 / 市が管理する遊具
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	本計画に基づき施設の更新または改築を行うことにより、施設を良好な状態で管理することが可能となり、安心・安全な公園利用の促進効果が期待できるため。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	65%（令和3年度当初）→ 74%（令和7年度末） 本計画に基づき施設の更新を行うことにより、修繕を要さない施設の割合が高まり、事業効果が適正に発現していると言える。

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<p>事業効果の発現状況を調査するため次によりアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施目的：事業効果を公園利用者等が実感しているか確認するもの 実施対象：遊具更新を実施した公園を学区に含む小学校の児童または児童の保護者 実施方法：事業内容や実施箇所等を示したちらしに記載の二次元コードから、アンケートフォームへ案内し回答を得た 実施期間：令和7年9月
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<p>週1回以上公園を利用する児童または児童の保護者を対象として設定した指標、及び結果は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園における遊具利用率：76% 遊具更新の認知度：66% 遊具更新的好感度：78% <p>以上のことから、本整備計画における事業実施の意義があり、更新した遊具への好感度の高まり等が確認できたため、今後も遊具等の公園施設の更新または改築に取り組むことが重要である。一方で、事業の認知度については遊具利用率と比べて低いため、事業効果浸透に向けた創意工夫が必要である。</p>

6 今後の方針等

総合的な所見	<p>本整備計画の事業実施にあたり、目標指標については、長寿命化対象施設を追加し、優先的に整備を進めたことにより、遊具更新に充てられる事業費が減少したことや、物価上昇等に伴い更新遊具数が当初見込みから減少したこと、施設の更新割合が未達成となる見込みであるため、一定の施設は未更新のまま存置されており、安全・安心な公園利用の懸念要因となっている。</p> <p>一方で、更新可能数が限られる中においても、劣化が見られる遊具を優先的に更新するよう柔軟な運用に努めることにより、劣化した遊具の割合は減少し、近年は遊具の瑕疵による事故も発生しておらず、より安全・安心な利用に供することができているため、計画の目標達成に寄与したと言える。加えて、アンケート調査結果においては、遊具利用を来園の目的とする利用者が多く、遊具更新を行う意義はあるものの、その認知度については遊具利用率と比べて低いため、事業効果の浸透に向けた創意工夫が必要であることが把握できた。また、多くの利用者が更新した遊具に好印象を持っていることもアンケート調査から確認できており、より快適な利用に供することができているため、計画の目標達成に寄与したと言える。</p> <p>以上のことから、安全・安心で快適な公園施設の提供を実施できたことが認められ、本整備計画の目標である「老朽化した公園施設の計画的な更新・改築等を行い、誰もが安全・安心で快適に利用できる公園緑地の整備を推進する」ことに概ね到達できたものと考えており、事業の効果が確認できたと言える。</p>
今後の方針 次期計画 （あり・なし）	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度～令和12年度を計画期間とする整備計画を作成する予定である。 現整備計画期間中に未実施となった施設について、日常点検等における状態把握及び適切な修繕・更新を実施するとともに、利用状況等に応じて更新の要否や優先度について検討する。 現整備計画期間中に更新を実施した施設についても、日常点検等における状態把握及び適切な修繕を実施し、施設の長寿命化を図る。 事業についての効果的な広報や、利用者参加型の整備手法等により、事業実施における公園利用者の認知度向上に取り組む。 公園緑地における施設について、使用見込み期限が超過し、更新を要する施設は依然として残存していることから、川崎市公園施設長寿命化計画の改定の取組を進めるとともに、これを踏まえた次期計画の作成及び長寿命化の効果を適切に判断できる指標の検討、さらには利用者ニーズを踏まえた施設選定等を引き続き意識しながら、更新に取り組む。